米国 CSUF での海外 FD 研修を終えて

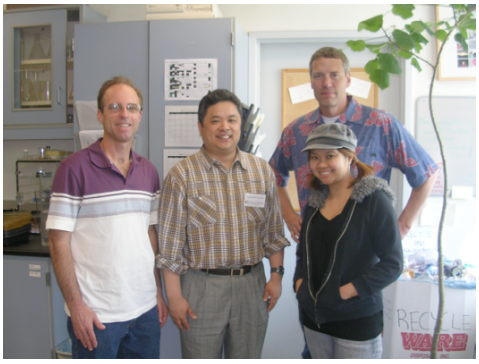
大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻　末延知義

生命先端工学専攻　金谷茂則教授が中心となって平成２０年度から実施されている文科省の大学院教育改革支援プログラム（大学院 GP）（Support Program for Improving Graduate School Education）の一環として、大学院教員の海外ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修に参加させて頂く機会を得た。期間は平成２１年３月９日から３月２２日の２週間で、研修場所は米国カリフォルニア州ロサンゼルスの南に位置するフラートン(Fullerton)のカリフォルニア州立大学 Fullerton 校（CSUF）である。受け入れ先の CSUF では、University Extended Education という英語を母国語としない教員が米国英語を用いて留学生教育を行うための How to 教育を提供する組織があり、これを利用して研修が実施された。現地スタッフの対応や研修の概略は、金谷教授の現地調査報告が大学院 GP のホームページ(http://www.icpgsfd-osaka-u.jp/network/report_ 2008.11/report_2008.11.html）に記載されており、事前に読んで安心して研修に参加できた。

小職はこれまでに、文科省国際学術研究の共同研究のために派遣され、米国の大学を何度か訪問した経験は有ったが、米国学生に対する教育の様子を腰を据えてじっくり観察したのは初めての経験であった。授業の進め方は概して非常に興味深く、教員が学生の注意を引こうとするサービス精神は旺盛で、インターネット動画や画像素材を様々な場面で利用し、また、教員との通信を行うための小型装置を個々の学生が所有して教員が瞬時に学生の理解度を把握する、というように、進んだ教育ツールを最大限に活用して良い授業を行おうとする意欲が感じられた。もちろんこれは、教育担当の教員には学生達からの厳しい評価が待っているからであり、当然、それに答えるハード面でのアシストはしっかりしており、ほぼ全教室にプロジェクターとインターネットに接続された PC が整備されていた。教員は教材のパワーポイントファイルの入った USB メモリと PC が設置されている棚を開ける鍵だけを持って行けば、即座に授業が始められる。日本でも是非実現して欲しい教育環境である。このような授業観察だけでなく、ほぼ毎日ホームルームクラスがあり、過去に受けてきた日本の教育方法の問題点の洗い出し、学生や教員としての内省の他、現地での授業観察結果の要点の取りまとめ等を日々行った。また、インタラクティブな教育をどう行うか、効果的な多人数、少人数教育や英語を母国語としない留学生の教育をどう行うか、といったテーマ別のワークショップにも参加した。更に、実践的トレーニングとして、英語の発音矯正や米国流プレゼンテーション方法など、英語で授業をする上での必須事項を数多く学んだ。特に、英国英語の発音を初等、中等教育で学んできた我々は、いかに多くの矯正が必要であるかということを身に染みて感じた。

このような「勉強」を実際の授業で試すべく、第２週目に入って現地の学部生、大学院生に対してミニ授業を行う機会を得た。研究活動としての英語での学会発表とは違って、興味の無い人をも引きつけるための様々な工夫が必要で、プレゼンテーション法の教育担当の教員や、その授業の担当教員（Prof. Darren Sandquest,写真参照）の指導と助けを得てパワポを事前に何度も作り替え、ようやく発表にたどり着いた。親身になって心配してくれた現地の先生方や同行の先生方など、皆様にお世話になった。紙面を借りて感謝申し上げたい。

上述の大学院 GP のホームページの指針に従って、研修時間外は現地でしか経験できないとても有意義な過ごし方をさせて頂いた。休日にはジョシアツリーで有名な国立公園（Joshua National Park）を訪問し、その後 San Diego までの観光 etc...と、今回の研修の同行者で、現地を良くご存知の菊地和也教授には大変お世話になり、私を含めて同行者は皆、感謝感激であった。



授業後の写真。中央が筆者で、後列右端が Prof. Sandquest。

最後に、有意義な海外研修の機会を与えて頂いた金谷教授、事務手続きでお世話になりました秘書の松本様、また、折しも、卒論、修論の取りまとめという研究室として一年の中で最も忙しい時期に貴重な時間を与えて頂き、研修が実り有るものとなるようにバックアップ頂いた福住俊一教授、並びに留守中お世話になった研究室スタッフ、学生の皆様に心より厚く御礼申し上げます。今後の本大学院 GP の FD 研修が、更に実りあるものとなることを祈念して筆を置きます。